

令和5年第22回定例公安委員会会議録

開催日時 令和5年8月24日（木）午前11時15分～午後2時55分

開催場所 警察本部

第1 定例会議

1 開催時間 午後1時30分～午後2時20分

2 出席者

公安委員会 衣笠委員長 勝部委員 久本委員

警察本部 半田警察本部長 雲田警務部長 山本首席監察官
笠田生活安全部長 加藤刑事部長 前田交通部長
岡山警備部長 植木警察学校長 坂口情報通信部長
足羽警務部参事官 宮田琴浦大山警察署長

（事務局等～畔田公安委員会補佐室長、前田室長補佐）

3 議題事項

4 報告事項

- 再就職状況の公表（警務部）
- 令和5年上半期の110番受理状況（生活安全部）
- 令和5年度鳥取県警察通信指令・無線通話技能競技会の開催（生活安全部）
- 琴浦大山警察署の取組状況（琴浦大山警察署）

（1）再就職状況の公表（警務部）

警察本部

再就職状況の公表は、条例等に基づき、退職管理の適正を確保するため行っているものである。条例及び規則では、警視以上及び管理職手当を支給されている警察行政職員は、離職後2年間に営利企業等に再就職した場合、職員の氏名、離

職の日及び離職した時に就いていた職等について、任命権者への届出が定められている。また、条例により、任命権者は、届け出られた事項について公表しなければならないと定められている。今回対象となる職員は6人である。

次に、退職管理要領では、前年度における特定地方警務官を除く退職職員数、退職職員の再就職者数、再就職先の企業等の区分について公表するものと定められている。これに基づき、今回対象となる職員は、退職職員数は21人、再就職者数は17人、再就職者17人の再就職先としては民間企業が5人、国・地方公共団体が9人、公共的団体等が3人である。

これらについて、9月1日から2年間、県警察のホームページに掲載することにより公表することとしている。

委員

条例等に従って、適正に公表をお願いする。

委員

人生100年時代である。再就職される方は、非常に豊富な知識や経験を持っていらっしゃると思うので、是非、新たなところで役割を担っていただきたい。

(2) 令和5年上半期の110番受理状況（生活安全部）

警察本部

上半期の110番受理件数は、平成30年と令和元年は20,000件を超えていたが、令和2年は17,589件で、前年と比べて3,106件、15パーセント減少した。それ以降、令和3年は18,787件、令和4年は20,325件、令和5年は23,346件と増加している。これは、コロナ禍の影響が110番の受理件数の推移に現れているものと思われる。令和2年1月に国内初の感染者が確認されて以降、4月には緊急事態宣言が発令されたことが影響し、令和2年は社会活動が停滞して、事件事故が減少するなど、警察の取扱いが減少したと考えられる。その後、ワクチン接種が進んだことやG・O・T・Oトラベル事業、給付金の支給など、様々な経済支援策が展開され、人の動きが徐々に回復し、それに伴って、警察の取扱いも増加しているものと思われる。令和5年5月以降は、感染症上の分類が5類に引き下げられ、ほぼ通常の生活に戻っていることから、110番受理件数もコロナ禍前の件数に戻るものとみている。

なお、全国の110番受理件数の推移も鳥取県と同様の流れとなっており、令和元年が約909万件であったものが、令和2年は約839万件と、約70万件減少し、その後、令和3年は約866万件、令和4年は約937万件と増加傾向で推移している。

通報内容は、以前から一番多いのが交通事故関係で、今年上半期は、前年と比べて282件増加し、5,610件の通報を受理している。一方で、刑法犯認知

件数自体は増加傾向にあるが、110番通報による刑法犯関係の取扱いは前年と比べて減少しており、上半期は190件の通報であった。通報内容は、交通事故関係と刑法犯関係とその他とに区分しているが、その他の上半期の件数は、1,300件増加の12,453件であった。

最後に、誤接続の増加について報告する。スマートフォンの場合、機種によるが、例えばアンドロイド端末の場合、令和3年10月以降に製造された機種には、電源ボタンを連続で5回以上押せば、警察や消防に自動的に接続する機能が搭載されており、初期設定では、接続先が110番に設定されている。このほか、電源ボタンと音量ボタンを同時に長押しすると警察や消防に接続される機種もあるが、鞆やポケットの中にスマートフォンを入れていて、携帯している人が気付かないまま、何らかの拍子に緊急通報機能が作動するケースが目立っている。今年は、こういう誤接続が急増していることから、新聞報道や県警察のホームページで、緊急通報機能の設定確認について呼び掛けて、注意喚起している。

委員

全国的にも人が動き出し、110番通報の増加は、鳥取県だけでなく全国的な傾向とのことだが、その中で、誤接続が増加傾向にあるというのが気になる。本来に必要な110番通報への対応に支障が生じることのないよう、工夫しながら、誤接続を減少させるような対策をお願いする。

委員

誤接続の増加に関して、販売しているショップだけでなく、スマートフォンを製造しているメーカーにも伝えることが必要であると思う。

委員

災害関係の通報は、増加しているか。

警察本部

大きく件数が増加したということはない。

(3) 令和5年度鳥取県警察通信指令・無線通話技能競技会の開催（生活安全部）

警察本部

通信指令競技会は、地域警察官の無線通話技能と事案対処能力の向上を図るとともに通信指令を担う人材の育成を目的として、平成21年から開催しており、本年は9月1日に警察本部で開催する。県下9警察署からそれぞれ地域警察官2人1組を選手として、警察署の通信指令担当者役と現場警察官役に分かれ、事案想定に基づいて、無線報告や指揮、現場対応などの対処能力を1チーム20分間で競うものとなる。出場資格は、階級や年齢、実務経験など一定の制限を設けて

いる。今年は3年ぶりに開会式・閉会式を行うこととしている。

なお、本競技会において、優秀な成績を収めた上位2所属を表彰することとしている。

委員

日頃から対処能力を高めていただくことが大事であると思う。しっかりとスムーズな対応ができるよう、スキルアップしていただいて、今後につなげていただきたい。

委員

無線機器をしっかりと使いこなせることは、大事な任務の1つであると思う。無線機は、全警察官が使いこなせるのか。

警察本部

そのとおりである。無線機を扱うためには資格が必要であり、資格を取得した上で取り扱っている。

委員

無線通話技能と事案対処能力は、どちらも重要なスキルであると思うので、競技会を通して、県警察のレベルアップを図っていただきたい。管区大会、全国大会があると思うが、そこで良い成績を収めていただければ、県民も喜ぶと思うので、引き続き、頑張ってください。

(4) 琴浦大山警察署の取組状況（琴浦大山警察署）

琴浦大山警察署

琴浦大山警察署から、女性専用留置施設の取組状況のほか、大山遭難事案への対応について説明がなされた。

委員

女性専用留置施設や大山遭難事案への対応など、琴浦大山警察署には、特異な事案への対応があり、警察官が多数必要となってくることもあると思う。今後の課題として、交代要員の確保が挙げられているが、スムーズに交代ができるよう、しっかりと基盤づくりをしていただきたい。

女性専用留置施設の運用については、表彰など、勤務員のモチベーションが上がる取組をしていただけており、大変よいと思う。

秋に向けて、大山への登山客が増えると思うが、遭難事案への対応をしっかりと願います。

委員

琴浦大山警察署は、女性専用留置施設があること、大山遭難事案に対応しなければならないこと、本当に特殊な事案に対応しなければならない警察署だと思う。女性専用留置施設は、以前に視察させていただき、看守勤務の方とも面接させていただいたが、高い意識を持って熱心に勤務されていることがわかったので、引き続き、頑張ってもらいたい。大山遭難事案対応についても、しっかりと対応できるよう、今後も日頃の訓練をお願いします。

委員

女性専用留置施設は、県下では初めということで、模索しながら進めているところだと思うが、問題点がでてきた際は、その点を捉えて、しっかりとした女性専用留置施設としていただきたい。大山山岳遭難対応について、大山は、鳥取県の観光の目玉のひとつであるので、登山アプリの活用の推進など、登山者が安心して登山ができるよう、引き続き、お願いします。

第2 その他の公安委員会活動

1 意見の聴取

運転免許課から、道路交通法に基づく意見の聴取5件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

2 報告事項

- ・公安委員会宛て苦情の受理
- ・開示請求に係る審査請求の審査会からの答申
- ・業績評価関係等
- ・監察報告

3 決裁

審査請求の裁決

4 公安委員会委員間の事前検討・協議等

5 公安委員会補佐室からの事務連絡等

公安委員会補佐室から当面の行事予定等について確認と説明があり、了承した。